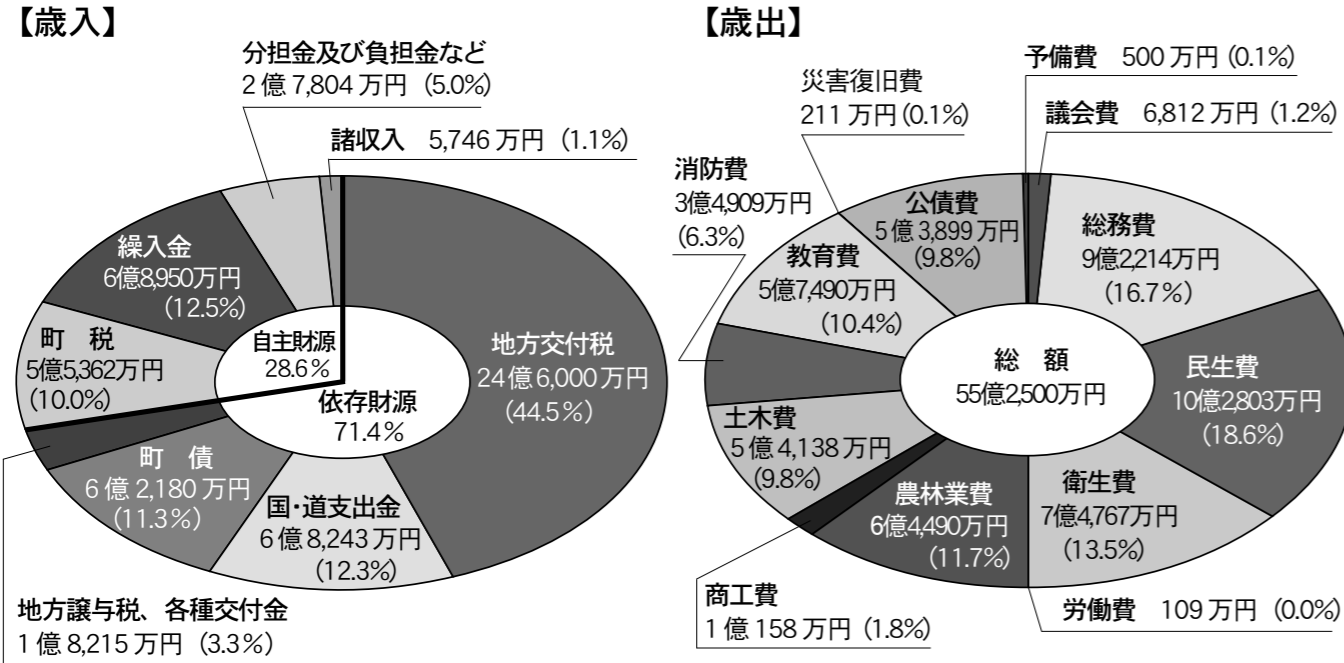


# 《特集・平成30年度 津別町の予算》 79億3,530万円の使い道



平成30年度の町の予算が、町議会の審議を経て決定しました。  
 予算の総額は79億3,530万円で、前年度比2・4%の増となりました。また、行政サービスを中心とする一般会計は、55億2,500万円で前年度比3・0%の増。  
 今月の特集では、町の予算内容についてお知らせします。

グラフ 一般会計予算額の科目別内訳



**【表2】 町民1人当たり予算額 (一般会計分)**  
**1,145,078円**

※平成30年2月末現在の住民基本台帳人口4,825人で計算しています。

議会費	14,119円	総務費	191,117円	民生費	213,064円	衛生費	154,958円	労働費	227円	農林業費	133,658円	商工費	21,053円
土木費	112,203円	消防費	72,350円	教育費	119,150円	災害復旧費	436円	公債費	111,707円	予備費	1,036円		

次に、右上の円グラフは歳出を科目ごとに表しています。歳出の9・8%を占める公債費は、事業を実施するときに借りたお金の償還金で5億3,899万円を支払うこととなります。昨年度から比較すると19・1%の増となっていますが、

**歳入** 歳入の7割を超える依存財源

一般会計予算額を科目別に見たのが上のグラフで、歳入は左上の円グラフです。  
 国から交付される地方交付税が24億6,000万円(前年度比1・2%減)で歳入の44・5%を占めています。これに国・道支出金、地方譲与税などを加えたものが依存財源といわれるもので、歳入全体の71・4%を占めています。  
 また、町債は木材工芸館改修事業による農林業債の増により、前年度比39・3%の増となりました。一方、自主財源のうち町税は5億5,362万円で、町民税の法人税割の増等を見込み、前年度比1・0%の増。繰入金は6億8,950万円で前年度比18・7%の増となりました。

また、表2は、今年の一般会計の予算額を町民一人当たりで割り返した金額です。  
 町民4,825人の一人当たりの金額は、1,14万5,078円となり、それぞれの科目に振り分けられた予算は、まちづくりや皆さんの暮らしに役立てられます。

**歳出** 公債費は19・1%の増

これは平成26年度に借り入れた認定こども園の起債元金償還が始まったことによるものです。  
 総務費では、新規事業として総合計画策定業務に9,466万円。民生費では、障害者総合支援事業に2億3,859万円、子ども子育て支援事業に1億3,216万円。衛生費では、地域医療維持助成事業に1億4,000万円、一般廃棄物最終処分場施設整備事業に3,526万円を計上しました。  
 農林業費では、国営農地再編整備事業推進事業に7,538万円、木材工芸館整備事業に1億5,979万円を計上。商工費では商工振興補助費等に3,468万円を計上しました。  
 土木費では、道路橋梁維持管理費に1億2,175万円。また、教育費では、多目的運動公園管理経費に4,595万円を計上しました。

**町民** 町民一人当たり予算  
**1,14万5,078円**

**【表1】 平成30年度会計別予算額の内訳**

会計名	予算額	前年度比
一般会計	55億2,500万円	3.0%増
特別会計		
国民健康保険事業特別会計	8億9,030万円	7.4%減
後期高齢者医療事業特別会計	9,180万円	4.3%増
介護保険事業特別会計	5億6,570万円	2.7%増
下水道事業特別会計	4億2,640万円	8.4%減
簡易水道事業特別会計	4億3,610万円	36.2%増
合計	79億3,530万円	2.4%増

町民の生活全般にわたる施策を行うために経理するのが「一般会計」です。将来にわたって継続できるまちづくりに向けた施策とともに、緊急性と住民要求の高い事業を選択して予算編成を行い、その結果、本年度の一般会計予算の総額は、表1のとおり前年度比3・0%増の55億2,500万円となりました。

特別会計の増減の主な要因につきましては、国民健康保険事業特別会計は制度移行に伴う共同事業拠出金等の減、後期高齢者医療事業特別会計は後期高齢者医療広域連合納付金等の増、介護保険事業特別会計は保険給付費等の増によるものです。簡易水道事業特別会計は上里地区導水管更新工事等の増によるものです。

**一般会計** 前年度比で3・0%の増  
**特別会計** 特別会計予算は前年規模を上回る